

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1572300125
法人名	有限会社 渡辺工務店
事業所名	グループホーム福寿荘
所在地	新潟県魚沼市与五郎新田13番地7 (電話) 025-794-5861

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 8月 28日

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 12人、非常勤 0人、常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1 階 ~ 2階 部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~42,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (21年 4月現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	魚沼市立堀之内病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、魚沼市の国道17号線沿い、交通の便の良いところに立地している。高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくことを支援したいとの思いから、昔から地域に根付いた工務店が平成16年に開設した。母体の工務店は地域住民には馴染みの会社であり、また、デイサービスセンターや居宅介護支援事業所も運営しており、ホームの認知度も高い。地域に根差した地域密着型サービス事業所としての展開を力強く推し進めている事業所である。
 運営者、管理者をはじめ職員は、地域住民や高齢者の精神的な支えになることを目指し、日々ケアの提供に努めている。ホームは木造2階建て・2ユニットで構成されており、木の温もりを大切にしたい内装は自宅で過ごすような心地よさを与えてくれる。玄関は広く開放感があり、また、利用者と職員との明るい会話と笑顔があふれ、訪れる者を気兼ねなく迎え入れてくれる。訪問調査時には日課であるタオル体操を利用者と職員と一緒に楽しんでいる様子うかがえた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価後、職員会議で検討し改善に取り組んだ。「理念」は、ホーム内の掲示場所を検討し見やすくなるように工夫した。「マニュアルの整備」では、必要なマニュアルの作成・見直しを実施している。「職員を育てる取り組み」では、外部研修に参加した職員からの伝達研修を行うなどホーム内での研修の充実を図った。「介護計画」では、利用者や家族の希望を取り入れるとともに、モニタリング用紙を活用して見直しの過程を明確にできるように取り組んでいる。「事故防止の取り組み」では、ケース記録に対応策の経過を記録し、実施後の検証を行うようにした。「急変や事故発生時の備え」では、同法人のデイサービスと一緒に研修を行い、応急手当の技術向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員一人ひとりが行ない、それをユニットごとに計画作成担当者がまとめた。職員は、自己評価を自分たちのケアを振りかける大切な機会であると理解し、時間をかけて実施した。また、自己評価の結果は運営推進会議で報告し、委員から意見を伺った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2か月に1回開催されており、利用者、家族、社会福祉協議会会長、魚沼市福祉課係長、地域包括支援センター、管理者、計画作成担当者を構成委員としている。運営推進会議では、利用者へのケア方法や活動状況の報告、感染症対策など具体的な内容を議題にし、構成委員から意見を求めサービス向上に取り組んでいる。市担当者にも参加してもらうことで、制度改正時等の速やかな情報収集につなげている。自己評価、外部評価の結果についても討議している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との信頼関係を深め、意見や要望を気兼ねなく伝えてもらうために、ホームでの本人の暮らしぶりや変化などを、手紙で伝えたり、電話や面会時に家族へ説明している。電話や面会の際には家族の要望や思いを聞き取るように努めている。また、意見箱を玄関に設置したり、苦情対応の流れをマニュアル化するなど、細かな家族の希望も聞き逃すことなくサービスに反映できるように体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民とは、散歩や商店への買物の時に挨拶しあうなど日常的な交流を心がけている。行き交う住民が立ち寄ってくれるきっかけとなるよう、ホーム玄関前の花壇に花を植えるなどの工夫もしている。また、夏祭りなど町内の行事を通じた交流も行っており、今後さらに、地域との連携を強化したいと前向きに考えている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に地域密着型サービスとしてどうあるべきかを職員で話し合い、理念を作り上げた。理念には、利用者がホーム内だけに留まらず、地域の中で明るく笑顔で暮らしていくことを支えるとともに、家庭的な雰囲気と思いやりであふれた毎日の提供に努めていくことが謳われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関、事務室に掲示されており、職員は、普段の業務で理念を確認し、自らのケアを振り返る機会としている。管理者は、毎朝の申し送りや月1回の職員会議である「月例カンファレンス」の際に理念に触れて話し、職員の意識付けと実践に努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	理念の実現のためには利用者、家族、地域、職員が同じ気持ちを持つことが大切と考え、ホームの理念の周知に努めている。家族へは、入居時の説明や面会時などの他、毎月送付している広報紙を活用して理念を伝えている。地域へは、ホームで行う夏祭りの時などを活用して理念をわかりやすく伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方と挨拶を交わしたり、ホームに来るボランティアを活用して地域との交流を進めている。町内の夏祭りの機会には、幅広い年齢層との交流にも取り組んでいる。地域の町内会や老人会とは現在行き来がなく、交流の方法が課題となっている。		町内会に加入して回覧板を回してもらったり、防災訓練への協力依頼や、町内会役員や民生委員の運営推進会議への参加など、地域の人たちがホームを訪れる機会をつくることで、地域の情報収集や意見交換が進み、ホームが地域活動や行事に参加できる機会が増えていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが、日常のケアを振り返る大切な機会と捉えて自己評価を行なった。職員が記入した評価表を、計画作成担当者がホームの評価としてまとめあげた。管理者は、職員のサービス評価への理解を深めるため、サービス評価に関する研修に積極的に職員を派遣している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、利用者のケアの方法や活動報告、制度改正事項の確認などの議題が話し合われている。サービス評価を踏まえた業務改善についても意見交換が行われており、運営推進会議をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の介護サービス事業所が事例検討を行なう「地域ケア会議」と、地域密着型サービス事業所が意見交換を行う「区分別会議」が市主催で実施されており、参加して市の担当者との連携を図っている。また、市が直轄する地域包括支援センターとも困難ケースに協働で取り組むなど、行政とは日常的な連携を行っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを整備し、職員全員に配布して理解を深めている。日々のケアの中でも管理者、職員同士が言葉をかけ合い、虐待にあたるようなことを見過ごさないように注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や職員人事などについては、毎月家族へ送付している広報紙にまとめている。利用者の日々の暮らしの様子や健康状態は、職員の手書きによる手紙で個別に報告されている。また、急を要する時などは、電話や家族の面会時などに報告するようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付と解決への対応体制を整備している。ホームでは、家族と何でも言い合える関係をつくるのが意見や要望の聴取に結びつくと考え、家族が面会に来た時などは職員から言葉をかけるように努めている。第三者委員を設置したり、玄関に意見箱を置くなど、間接的に意見を言える体制も整えている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、共用スペースである居間の手すりの設置、汚物槽の設置など、計画作成担当者へ事業所の業務改善についての要望を伝え、計画作成担当者が集約し管理者へ報告している。管理者は、職員の見解について、月例カンファレンスなどで検討事項に挙げ、討論し、業務改善に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動が利用者の暮らしに少なからずダメージを与えようと考え、異動は極力行わないこととしている。やむを得ず離職がありそれに伴い異動が生じた場合は、事前に利用者へ説明するなどダメージを減らせるよう対応している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	実際のケアに関するマニュアルの他、苦情対応、感染症対策、虐待防止など各種マニュアルが整備され、冊子にまとめられている。マニュアルの冊子は、内容の加除など毎年見直しを行って新しいものに作りかえ、職員全員に配布して周知を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の経験年数や段階に応じて外部研修に参加できるように計画をしている。また、研修案内を職員間で回覧し希望者が参加できるようにしている。研修に参加した職員は、月例カンファレンスにて他職員へ伝達している。新人職員には、経験のある職員が交代で1ヶ月間マンツーマンで指導し、育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、年3～4回開催される魚沼地区グループホーム協議会に参加し、研修会やケアについての意見交換など他事業所と交流を行っている。この協議会とは別に、市内にある6つのグループホームの利用者と職員とが2ヶ月に1回集まり、茶話会を設け交流を図るなど、事業所間のネットワークの構築を進めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や計画作成担当者は、職員が悩みやストレスを抱え込まず気兼ねなく相談できるよう、日頃から言葉をかけ合うなどして何でも言いやすい雰囲気作りを心がけている。また、管理者は、時間の区切りを持ち業務を行なうことが大切と考え、休憩時間をしっかり取り、勤務時間を守ることを職員に伝えている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人と家族からホームの見学に来てもらっている。見学の際は、職員がホーム内を案内して雰囲気や伝えたり、また、他利用者と話したりお茶を飲んだりして過ごすことで、日頃のホームの様子を感じてもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望する料理を作る時は、利用者から味付けを教えてもらうなどして一緒に調理している。また、茶道が得意な利用者から職員が作法を教わり、ホームで茶話会を行うなど、利用者の力を発揮してもらいながらともに暮らす関係を構築している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの本人の暮らしを毎月手紙にし、家族へ送付している。手紙では実際の様子をできるだけ具体的に伝えるよう心がけている。また、入浴を嫌がる利用者に対しては家族と相談して一緒に支援するなど、家族と職員とが協力して利用者を支えるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望が叶うことでホームでの暮らしも充実すると考え、日々の暮らしの中で利用者の思いや希望を確認し、実現に向けて取り組んでいる。田畑で農作業がしたいという利用者には、職員の所有する田畑で農作業に参加したり、市外の出生地に出かけたいという利用者へは時間をかけて外出するなどした。思いや意向の確認が難しい利用者には、家族と相談したり、職員間で検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人や家族だけでなく、これまで関わってきたケアマネージャーなどからも、自宅での暮らし方や生活歴等を情報収集している。情報は、MDS方式やセンター方式のアセスメントシートを活用してまとめ、職員間での共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のやり取りで確認した希望や願い、ケアの課題などを記録し、それをもとに職員がカンファレンスで検討して介護計画に反映させている。家族へは面会時や電話で介護計画の内容を相談し、意見を介護計画に取り入れ、面会に訪れた際に同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、ケアの実施状況や本人・家族の意向、今後のケアのあり方を検討して介護計画の見直しを行っている。また、毎日の送りなどからケア内容の変更の必要性が確認された際は、速やかに計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域におけるこれまでの利用者の暮らしぶりを極端に変化させないことを大切に、馴染みの商店、理美容院、出生地への訪問、墓参り、町内の祭りなど、利用者の希望を確認して柔軟に外出している。家族へも外出・外泊ができることを説明するなど、利用者の希望や願いにそった支援ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医へ、家族の付添を基本として受診している。受診の際は、血圧や体温、食事、入浴など暮らしの様子をまとめた「バイタルチェック表」を準備し、家族へ渡して医師に情報伝達している。家族の事情により職員が付添を行った場合は、電話などで受診結果を家族に知らせている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、医療面でのケアの限界がありホームでの終末期ケアはできない旨を利用者、家族へ説明している。ホームでの支援が難しくなってきた際は、家族、主治医と相談し、医療施設などより良い支援ができる場所への住み替えを支援している。ホームでは利用者の重度化も進んできており、現在、職員間で重度化へ向けた対応を協議しているところである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への呼びかけは名字で行うことを徹底し、また、言葉をかける際は、利用者の誇りやプライバシーに配慮した上で、ゆっくり穏やかに行うようにしている。ケース記録や個人が特定できる情報は、利用者の目が触れない場所で取り扱うことを徹底しており、事務室にある鍵のかかる書庫で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や外出行事など大きな生活の流れは概ね決めているが、利用者の暮らしを時間で区切らないことを原則としている。一人ひとりの希望や体調に配慮し、利用者とは相談しながら一日の暮らしを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と職員とで行っている。食材は利用者と近所の商店へ買い出しに行ったり、商店から配達してもらっており、多くの地元産食材を使用している。利用者個々人用の食器に盛りつけられ、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、和やかに会話しながら楽しく食事をとっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のチェック表を用いて排泄支援を行っている。チェック表にて排泄パターンを把握してトイレ誘導したり、利用者の仕草や行動などを見ながら誘導するなど、職員間で情報を共有しながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望や心身の状況に合わせて、入りたい時に入れるよう支援することを基本としている。入浴の際は利用者がリラックスできるように、薬湯風呂にするなどの工夫もしている。入浴を嫌がる利用者へも、家族と相談して協力を得るなどしながら、個々に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共用スペースのモップ掛け、テーブル拭き、編み物、新聞や雑誌の整理など、利用者の心身の状態に合わせた役割を提供し、ホームでの暮らしに張り合いや楽しみが持てるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出できないことは利用者にとって大きなストレスに繋がると考え、個々の外出希望を把握し、職員の勤務調整などで希望に対応している。近隣の商店などへは日常的に出かけている。自分で希望を表明することができない利用者へは、家族に聞いたり職員間で検討して外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束を行わないことは当然のことであると理解しており、日頃から職員同士で確認・注意し合い、身体拘束のないケアを実践している。		現在のところ職員には、身体拘束となる具体的な行為等関連法について学習する機会がない。マニュアルをまとめたり、ホーム内で研修するなどして、職員が身体拘束のないケアの理解を深めていくことを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が開くとチャイムが鳴る仕組みにより、人の出入りや来訪を把握している。日中に鍵をかける事はなく、職員は、利用者の外出希望に迅速に対応して付き添うなど、安全を確保しながら利用者の自由な暮らしを支えている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故が発生した場合は、マニュアルに従ってヒヤリハット報告書、事故報告書に経過、原因をまとめ、当日のうちに対応策を検討している。対応策実施後の経過は利用者のケース記録に記載し、見直しが必要な時は再度検証・検討している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員は、消防署が行う救急法の講習会に参加したり、同法人のデイスサービスが行うAEDの講習会に参加するなど、事故発生時に備えて訓練している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	職員の連絡網を整備するとともに、避難訓練や通報訓練を実施し、有事の際の対応を徹底している。避難訓練には、運営推進会議の委員にも参加を依頼している。また、職員の防災意識を高めるため、全員が防火管理者資格を取得することを目指して取り組んでいる。		避難訓練、通報訓練に運営推進会議の委員は参加しているが、近隣の方など地域住民の参加には至っていない。災害時に地域住民からの協力が得られるよう、ホームの避難訓練や通報訓練に協力を得たり、災害時の連絡網に地域の防災組織や地域住民に参画してもらうなど体制づくりを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量をチェックし、1日を通じて必要量の確保に努めている。摂取量が少ない利用者へは捕食を取り入れたり、重度化している利用者へは食事形態を変更するなど、一人ひとりに応じた支援を行っている。献立の栄養バランスは、地域包括支援センターの保健師に毎月確認を依頼している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内は、木の温もりが感じられる内装である。いつでもお茶が飲めるよう食堂には常にポットを用意し、利用者と職員が自然に集い、つるげる空間となっている。食堂からつながる畳スペースでは横になって休むこともでき、利用者が生けた花が飾られ、季節感を感じることができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今までの暮らしの中で使い慣れたものをホームでも使用できることを、契約時に本人・家族に説明し、持ち込みをお願いしている。居室には、その人が使い慣れた畳、タンス、時計、写真、お茶道具などがたくさん持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがされている。</p>		